

=はじめに=

このメールマガジンは、国土交通省において収集した事業用自動車に関する事故情報等のうち重大なものについて、皆様に情報提供することにより、その内容を他山の石として各運送事業者における事故防止の取り組みに活用していただくことを目的として配信しています。

また、自動車運送事業等における安全・安心確保に関する最近の情報等についてもトピックとして提供していますので、ご活用ください。

=目次=

1. 重大事故等情報=7件 (9月11日～9月17日分)

- (1) 乗合バスの死傷事故
- (2) 乗合バスの衝突事故
- (3) 乗合バスの車内事故①
- (4) 乗合バスの車内事故②
- (5) 貸切バスの死傷事故
- (6) 法人タクシーの死傷事故
- (7) 大型トラックの衝突事故

2. トピック

- (1) 10月以降もタクシー事業者によるデリバリー・出前が活用できます！
- (2) 事業用自動車事故調査委員会の調査報告書等の公表について
- (3) バスの交差点での死亡事故を踏まえた事業用自動車の安全確保の徹底について
- (4) 観光バス及び路線バスの車内換気能力
- (5) 夏季における運転者の体調管理の徹底について (要請)
- (6) 事業用自動車の運転者に対する飲酒運転の防止等法令遵守の徹底について (再要請)



1. 重大事故等情報=7件 (9月11日～9月17日分)

(1) 乗合バスの死傷事故

9月11日(金)午後4時頃、宮崎県の国道において、同県に営業所を置く乗合バスが回送運行中、信号機のある交差点を右折する際に、横断歩道を左側から横断中の歩行者をはねた。

この事故により、当該歩行者が死亡した。

(2) 乗合バスの衝突事故

9月11日(金)午後6時19分頃、大阪府の片側2車線の国道において、府内に営業所を置く乗合バスが乗客50名を乗せて第1通行帯を運行中、第2通行帯を走行していた乗用車とバイクが接触し、当該バスの前方でバイクが転倒したため、回避のために急ブレーキをかけたがバイクと衝突した。

この事故により、当該バスの乗客が転倒等で、1名が重傷、7名が軽傷を負った模様。

(3) 乗合バスの車内事故①

9月15日(火)午前9時44分頃、東京都の駅ロータリーにおいて、都内に営業所を置く乗合バスが乗客12名を乗せ運行中、バス停で停車する際、横向き座席に座っていた乗客が停車する前に立ち上がり、停車時の揺動により転倒した。

この事故により、当該乗客が重傷を負った。

(4) 乗合バスの車内事故②

9月15日(火)午前10時15分頃、東京都の市道において、都内に営業所を置く乗合バスが乗客18名を乗せ運行中、バス停に停車する際、前向き座席に座っていた乗客が停車する前に立ち上がり、停車時の揺動により転倒した。

この事故により、当該乗客が重傷を負った。

(5) 貸切バスの死傷事故

9月15日(火)午後4時30分頃、千葉県の市道において、県内に営業所を置く貸切バスが乗客約10名を乗せ運行中、信号機のある交差点を右折する際、横断歩道を右側から横断中の歩行者をはねた。

この事故により、当該歩行者が死亡した。

(6) 法人タクシーの死傷事故

9月16日(水)午前0時30分頃、愛知県の市道において、県内に営業所を置く法人タクシーが乗客1名を乗せ運行中、信号機のある交差点で右折した際、横断歩道を右側から横断中の歩行者をはねた。

この事故により、当該歩行者が死亡した。

(7) 大型トラックの衝突事故

9月12日(土)午後2時40分頃、神奈川県道の国道において、静岡県に営業所を置く大型トラックが運行中、対向の乗用車が中央車線をはみ出し、当該トラックと衝突。その後乗用車は炎上した。

この事故により、乗用車に乗っていた2名が死亡、当該トラック運転者が軽傷を負った。

上記7件の死傷者数計：死亡5名、重傷3名、軽傷8名（速報値）



2. トピック

(1) 10月以降もタクシー事業者によるデリバリー・出前が活用できます！

～タクシー事業者による食料・飲料に係る貨物自動車運送事業法上の取扱いを整備～

(配信日：R2.9.11)

タクシー事業者による食料・飲料の運送ニーズが今後も見込まれることを踏まえ、貨物自動車運送事業法の許可の取得等により、タクシー車両で10月以降も食料・飲料の運送を行うことができるよう措置することとします。

1. 背景

現在、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う食料・飲料の運送に係るニーズの増加を踏まえ、タクシー事業者が道路運送法に基づく許可を受けた上で、本年9月末まで、有償で食料等を運送することを特例的に認めています。この間、食事はデリバリーや出前を活用するといった「新しい生活様式」が普及し、そのニーズは引き続き見込まれるとともに、タクシー事業者が食料等の運送を行うことへの期待も強いところです。さらに、タクシー事業者による食料等の運送については、特例措置を開始して以降、地域公共交通という重要な役割を担うタクシー事業への影響という観点から、また、タクシーにより食料等を運送するという貨物運送上の安全性の観点からも、一定の条件下においては、大きな問題が生じないことが確認されたところです。

これらを踏まえ、今般、貨物運送の原則にのっとり、貨物自動車運送事業法の許可の取得や一定の安全管理等に係る措置を講じることを前提として、タクシー事業者が特例措置の期限後も食料・飲料の運送ができるよう措置しました。

2. 概要

(1) 貨物自動車運送事業法に基づく許可を得た上で、貨物運送に必要な安全管理等に係る体制整備を図ることとする。

(2) 運送できる品目を食料・飲料に限定する一方、できる限り必要最小限の基準となるよう、資金計画や運行管理等について、その形態等を踏まえた柔軟な対応をとることにより、特例措置からのサービスのシームレスな開始・継続を図る。

(3) 新制度の運用にあたっては、(現状大きな問題は確認されていないものの) 3か月ごとに運送の状況についてモニタリングを行い、措置の運用状況について検証を実施するとともに、事業者による許可条件の違反が発覚した場合には、許可の取消し等の措置をとることがある。

3. 今後のスケジュール

9月11日 申請の受付開始
9月30日 特例の期限
10月以降 順次、貨物自動車運送事業法に基づく許可

※詳細については、下記リンク先をご覧ください。

→ https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha04_hh_000220.html

(2) 事業用自動車事故調査委員会の調査報告書等の公表について

(配信日：R2.8.28)

今般、次の調査事案について、報告書が議決されたことを受け、当該報告書を公表いたしますのでお知らせします。

また、本委員会の発足から令和元年7月までに議決された37件の事故について、事故全体の分析や、事故の類型化を行うとともに、これまでの再発防止策の提言内容と、当該提言を踏まえた各種取組状況について検証を行ったうえで、今後の本委員会のあり方についての方向性をとりまとめ、これまでの5年間を総括しましたので併せてお知らせします。

○ 重要調査対象

- ・ タクシーの衝突事故（神戸市中央区）
- ・ 大型トラクタ・セミトレーラの追突事故（石川県かほく市）
- ・ 大型トラックの衝突事故（岐阜県多治見市）

※詳細については、下記リンク先をご覧ください。

→ https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha02_hh_000422.html

(3) バスの交差点での死亡事故を踏まえた事業用自動車の安全確保の徹底について

(配信日：R2.7.31)

本年に入り、バス車両が丁字路を右折する際に、交差点の歩道上を車両左手側から横断する子供と衝突し、子供が死亡する事故が立て続けに生じております。また、子供がバス車両前方を横断する際の事故が近年数多く発生しています。自動車運送事業者の皆様におかれましては、同種事故の再発を防止するため、運転者に対する指導・監督、点呼等を通じて、次の事項について改めて徹底するようお願い致します。

- (1) バス車両は、「死角が大きい」ことから、直前、側方、後方など見えない

部分に配慮した運転が必要であることを認識させること。特に、丁字路をはじめとした交差点での右折時に車両左手側から進行する歩行者等に気を配ること。

(2) 道路には、歩行者や自転車などが通行しており、それぞれの行動を理解し走行時に配慮することにより、事故を回避できることを認識させること。

(3) 歩道側の植え込みなどにより見通しの悪い交差点では、歩行者や自転車が飛び出してくる可能性が高いことから、一時停止または徐行し、注意して走行することが必要であることを認識させること。

(4) 観光バス及び路線バスの車内換気能力

(配信日：R2.6.19)

大型自動車メーカー等の協力のもと、主な観光バス及び路線バスの車内換気能力についてまとめました。

○観光バスの車内換気能力

観光バスは、エアコンの外気導入モードを使用することにより、窓を閉めた状態で5分程度で換気する能力があります。

また、8割以上の車両は窓を開けられる構造であり、利用者が窓を開けて換気することも出来ます。

○路線バスの車内換気能力

路線バスは換気扇を使用することにより、3分程度で換気する能力があります。

※詳細については、下記リンク先をご覧ください。

→

https://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/top/data/covid19_info_shyanaikanki.pdf

(5) 夏季における運転者の体調管理の徹底について（要請）

(配信日：R2.6.12)

トラック事業者の皆様におかれましては、運転者の新型コロナウイルスの感染予防のため、マスク着用の徹底等の取組を進めていただいておりますこと、感謝申し上げます。

これから夏季を迎えるに当たり、熱中症を予防するなど体調管理に努める必要がございますが、今夏においては新型コロナウイルスの感染予防対策も必要とされ

ています。

つきましては、新型コロナウイルス感染予防対策に加え、特に次の点に留意し、運転者の体調管理に万全を期していただきますようお願い申し上げます。

1. 始業点呼時に運転者の健康状態を確実に把握するとともに、運転者に対して、運行中に体調の異変を感じた時に、無理に運行を続けると非常に危険であることを理解させ、運行中に体調の異常を少しでも感じた場合、速やかに営業所に連絡する等の指導を徹底すること。

2. こまめに水分・塩分を補給することや、一名乗車時や屋外での荷役作業等において他人と十分な距離を確保できる場合にはマスクを外すこと等の熱中症予防について、運転者に対して指導すること。

(参考)「令和2年度の熱中症予防行動」(厚生労働省・環境省)

→ https://www.wbgt.env.go.jp/pdf/20200526_leaflet.pdf

(6) 事業用自動車の運転者に対する飲酒運転の防止等法令遵守の徹底について
(再要請)

(配信日：R2.5.22)

事業用自動車の運転者に対する飲酒運転の防止については、「事業用自動車総合安全プラン2020」において事業用自動車における飲酒運転ゼロを目標に掲げ、様々な取組を実施してきたところです。また、昨年5月にも「事業用自動車の運転者に対する飲酒運転の防止等法令遵守の徹底について」(通達)を発出し、事業者の皆様へ、特に以下の事項について周知徹底していただくよう、お願いしてきたところです。

しかしながら、昨年の飲酒運転による事業用自動車の交通事故は56件と、「事業用自動車総合安全プラン2020」を策定した2016年以降で最多となりました。また、本年は、国土交通省への報告が求められる重大事故が、昨年同時期を上回る13件発生しています(速報ベース)。特に、5月に入り4件の事故が発生しているところです。

自動車運送事業は、今般の新型コロナウイルス感染症が拡大する中、国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な存在であり、事業者の方々に日々ご尽力いただいているところですが、こうした中で飲酒運転による事故が相次いで発生していることは、運送事業に対する社会の信頼の失墜に繋がる事態であり、誠に遺憾です。つきましては、「自動車運送事業者が事業用自動車の運転者に対して行う一般的な指導及び監督の実施マニュアル」等を活用し、飲酒運転の防止の徹底について、改めて周知徹底いただくよう、お願いいたします。

とです。道路運送車両法により、自動車ユーザーは、自分の自動車が保安基準に適合するよう点検・整備する義務がありますので、忘れずに修理を受けましょう。

